

問1 1858年にポーハタン号などの艦上で調印された日米修好通商条約などの不平等条約において、日本側に認められていなかった、輸出品や輸入品にかかる税率を自国で決定する権利を何といいますか。（2020年 北海道公立入試 類似）

1. 関税自主権 2. 領事裁判権 3. 治外法権 4. 参政権

問2 19世紀半ばのアメリカ合衆国では、産業構造の違いや奴隷制の存廃をめぐる国内が二分される内戦が起きました。この戦争の名称と、戦時中に奴隷解放宣言を発表して北部の勝利を決定づけた大統領の組み合わせとして適切なものはどれですか。

（2024年 千葉県公立入試 類似）

1. 南北戦争とリンカン 2. 南北戦争とワシントン 3. アメリカ独立戦争とリンカン 4. アメリカ独立戦争とワシントン

問3 下田・函館のほか、神奈川・長崎・新潟・兵庫の開港、および領事裁判権（治外法権）の承認などを規定した日米修好通商条約に関連して、当時の貿易が国内経済に及ぼした影響の背景として適切な説明はどれですか。（2025年 沖縄公立入試 類似）

1. 日本に関税自主権がなかったため、安価な綿糸や綿織物の流入を抑えることができず、国内の綿作や生産地に打撃を与えた。 2. 領事裁判権を認めた結果、外国人商人が国内の生産地へ自由に立ち入ることが許可され、綿織物の産地が直接支配された。 3. 幕府が目安箱に寄せられた意見をもとに株仲間を再興し、輸入綿糸の価格を吊り上げたため、国内の織物業者が倒産した。 4. 金貨と銀貨の交換比率が外国と異なっていたため、安価な綿織物を輸入する代わりに大量の銀貨が国内に流入した。

問4 19世紀後半のアメリカ合衆国において、工業化を推進し奴隷制に反対する北部と、奴隷制を利用した農園経営の維持を主張する南部との対立から発生した内戦と、その結果について述べた文として正しいものはどれか。（2023年 鳥取公立入試 類似）

1. リンカン大統領の指導のもとで北部が勝利し、奴隷解放が実現したことで国家の統一が図られた。 2. ワシントンが指導する大陸軍が南部を制圧し、イギリスからの独立と同時に奴隷制の廃止を宣言した。 3. 第一次世界大戦の影響により南北の融和が進み、国際連盟の仲介によって奴隷制が段階的に廃止された。 4. 南部の主張が認められて州の権限が強化され、工業化を抑制して農業中心の国家体制が確立された。

問5 1858年に、大老の井伊直弼が天皇の許可を得ないままアメリカと調印した、貿易の開始を目的とした条約は何ですか。（2020年 香川公立入試 類似）

1. 日米修好通商条約 2. 日米和親条約 3. 日朝修好条規 4. 日米安全保障条約

問6 1858年、江戸幕府の大老である井伊直弼が、朝廷の許可（勅許）を得ないままアメリカと結んだ条約について、その内容と性質を説明したものと最も適切なものはどれですか。（2025年 千葉公立入試 類似）

1. アメリカに領事裁判権を認め、日本に関税自主権がない不平等な内容であった。 2. 下田と箱館の2港を開港し、アメリカ船に食料や石炭を供給することを約束した。 3. 日本が清の独立を承認し、領事裁判権を相互に認め合う対等な内容であった。 4. イギリスとの軍事同盟を結び、ロシアの南下政策に対抗することを目的とした。

問7 日米修好通商条約の締結によって貿易が本格化した際、イギリスなどの欧米諸国から機械生産による安価な製品が大量に流入しました。これにより、日本の農村部などの生産地に大きな打撃を与えた品物の組み合わせとして正しいものを選択してください。（2025年 愛媛公立入試 類似）

1. 綿糸・綿織物 2. 生糸・茶 3. 絹織物・陶磁器 4. 毛織物・鉄鋼

問8 日本では江戸幕府が倒れ、戊辰戦争を経て明治維新へと進んでいた19世紀後半、世界各地でも国家の統一や近代化に向けた大きな動きが見られました。この時期のアメリカ合衆国の状況について述べた文として、正しいものはどれですか。（2024年 千葉県公立入試 類似）

1. 自由貿易と奴隷制廃止を求める北部と、保護貿易と奴隷制維持を求める南部が対立し、大規模な内戦が展開された。 2. イギリスの植民地支配からの独立をめざして戦争が起こり、自由と平等を掲げた独立宣言が発表された。 3. 絶対王政による圧政に対して市民が立ち上がり、人権宣言が採択されて国王が処刑される革命が起きた。 4. 国王が議会を無視して増税を強行したことから内乱となり、最終的に血を流さずに立憲君主制へと移行した。

問9 1858年に結ばれた条約に基づき、日本地図上において江戸に近い位置にあり、当時「神奈川」として開港が予定されながらも、実際には隣接する村が整備されて開港場となった現在の都市名を次の中から選びなさい。（2017年 茨城県公立入試 類似）

1. 函館 2. 下田 3. 横浜 4. 神戸

## 答え合わせ・解説

|    |  |  |
|----|--|--|
| 問1 | <b>答え 1</b><br><b>関税自主権</b>  | 日米修好通商条約では、日本が輸入品に対して自由に税率を決めることができず、相手国との協議で決めることになっていました。このように、自国で独自に税率を定める権利がない状態を、関税自主権の欠如といいます。これに対し、外国人が日本で犯した罪をその国の領事が裁く権利は領事裁判権（治外法権）と呼ばれ、関税自主権とともに幕末から明治にかけての条約改正における大きな課題となりました。 |
| 問2 | <b>答え 1</b><br><b>南北戦争とリンカン</b>  | 19世紀半ばのアメリカでは、商工業が発展し奴隷制に反対する北部と、綿花栽培などの大農園経営を行い奴隷制の維持を主張する南部が激しく対立しました。これが南北戦争へと発展しましたが、リンカン大統領が奴隷解放宣言を出したことで国際的な支持も北部に集まり、最終的に北部が勝利して国家の統一が維持されました。                                      |
| 問3 | <b>答え 1</b><br><b>日本に関税自主権がなかったため、安価な綿糸や綿織物の流入を抑えることができず、国内の綿作や生産地に打撃を与えた。</b> | 日米修好通商条約は、領事裁判権の承認や関税自主権の欠如といった不平等な内容を含んでいました。特に、日本側に輸入関税を自主的に決定する権利がなかったため、海外の安価な工業製品に対して高率の関税をかけて国内産業を保護することができませんでした。その結果、大量に輸入された綿糸や綿織物が国内市場を圧迫し、伝統的な綿作や綿織物業に大きな損害を与える要因となりました。        |
| 問4 | <b>答え 1</b><br><b>リンカン大統領の指導のもとで北部が勝利し、奴隷解放が実現したことで国家の統一が図られた。</b>             | 1861年に始まった南北戦争は、自由な労働力を求める北部の工業地帯と、奴隷制による綿花栽培を続けたい南部の農園主との対立が背景にあります。北部の勝利によって、1863年の奴隷解放宣言が実質的な効力を持つようになり、アメリカは近代的な工業国家としての歩みを強めることになりました。  |
| 問5 | <b>答え 1</b><br><b>日米修好通商条約</b>   | 1854年に結ばれた日米和親条約は開国と燃料・食料の補給を主眼としていましたが、1858年のこの条約はアメリカ側の強い要求により、本格的な貿易（通商）を開始するために締結されました。勅許を得ない「無勅許調印」が行われたことも大きな特徴です。   |
| 問6 | <b>答え 1</b><br><b>アメリカに領事裁判権を認め、日本に関税自主権がない不平等な内容であった。</b>                     | 日米修好通商条約は、貿易を開始するために結ばれた条約ですが、日本に在留する外国人が罪を犯しても日本の法律で裁けない「領事裁判権（治外法権）」を認め、輸入品の関税率を自国で決める「関税自主権」が日本にないなど、日本にとって不利な不平等条約でした。井伊直弼が勅許を得ずに調印したことは、後の尊王攘夷運動を激化させる要因となりました。                       |
| 問7 | <b>答え 1</b><br><b>綿糸・綿織物</b>   | 産業革命を経験した欧米諸国から、工場で大量生産された安価な綿糸や綿織物が輸入されるようになりました。それまで日本の農村で手作業によって行われていた綿作や綿織物業は、価格競争に勝つことができず、国内の生産地は深刻な経済的打撃を受けることとなりました。一方、生糸や茶は当時の主要な「輸出」品目です。  |
| 問8 | <b>答え 1</b><br><b>自由貿易と奴隷制廃止を求める北部と、保護貿易と奴隷制維持を求める南部が対立し、大規模な内戦が展開された。</b>     | 日本の幕末から明治維新にかけての時期（1860年代）は、アメリカでは南北戦争が戦われていた時期に相当します。北部はイギリス製品に対抗するため保護貿易を求めましたが、南部は原材料を輸出するため自由貿易を求めるなど、経済面でも対立がありました。他の選択肢は、18世紀のアメリカ独立戦争やフランス革命、17世紀のイギリスにおける名誉革命の説明です。                |
| 問9 | <b>答え 3</b><br><b>横浜</b>   | 日米修好通商条約で定められた開港場の一つです。幕府は、東海道の宿場町として賑わっていた神奈川（現在の横浜市神奈川区周辺）を外国人と接触させることを避け、対岸の横浜村を整備して開港場としました。これが現在の横浜港の発展につながりました。  |